

浅間山

○ 火山活動評価：静穏な状況（レベル 1）

火山活動は静穏に経過しました。

現在の火山活動度レベルは 1 です。平成 18 年 9 月 22 日以降、レベル 1 が継続しています。

○ 概況

・ 噴煙活動（図 1、図 3②、表 1）

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、噴煙高度は火口縁上 100～200m で推移しました。

・ 熱活動（図 2）

1 日に上空からの観測（陸上自衛隊の協力による）及び山頂付近での観測を同時に実施しました。火口内の詳細な状況は噴煙のため確認できませんでした。山頂火口縁からの赤外熱映像装置¹⁾による観測では、噴煙の影響で火口内の正確な温度分布を捉えることはできませんでしたが、火口底の一部には引き続き高温部分の存在を確認しました。高温部分の全体的な位置等には特に大きな変化は認められませんでした。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器で、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・ 火山ガス（図 3③、表 1）

6 日と 30 日に実施した観測では、二酸化硫黄の放出量はそれぞれ 1 日あたり 50～120 t 及び 130～250 t と前月（10 月 26 日は 50～100 t /日）と同程度で、やや少ない状態が続いています。

・ 地震活動（図 3⑤⑥⑦⑧、図 4、表 1）

火山性地震は、中旬まで少ない状態で経過していましたが、下旬に入ってから 26 日及び 27 日に 1 日あたりの回数が 30 回を越えるなど一時的にやや増加しました。その後、回数は次第に減少しています。発生した地震の多くは、周期の長い特徴を持つ BL 型地震（波形例は図 6 を参照）で、震源は求まっていますが山頂火口直下のごく浅いところに発生していると推定されます。このほか、周期の短い特徴を持つ BH 型地震（波形例は図 6 を参照）も発生しており、求まった震源はこれまで同様に山頂直下の深さ約 1～3 km に分布していました。火山性微動の月回数は 4 回と少ない状態で経過しました。

※この資料は気象庁のほか、陸上自衛隊第 12 旅団、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所、東京大学、独立行政法人産業技術総合研究所及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

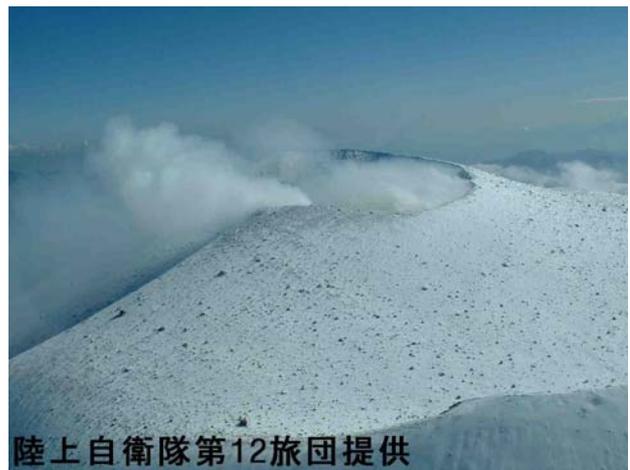
・ 地殻変動（図 3 ⑨⑩）

山体周辺の GPS 連続観測では、特段の変化はありませんでした。このほか、傾斜観測²⁾ や光波測距観測³⁾ でも、火山活動の高まりを示すような変化はありませんでした。

- 2) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により、山体が膨張・収縮した場合に変化が観測されることがあります。
- 3) 光波距離計を用いて山体に設置した反射鏡までの距離を測定する機器。火山体直下へのマグマの注入等により、山体が膨張・収縮した場合に距離の変化が観測されることがあります。

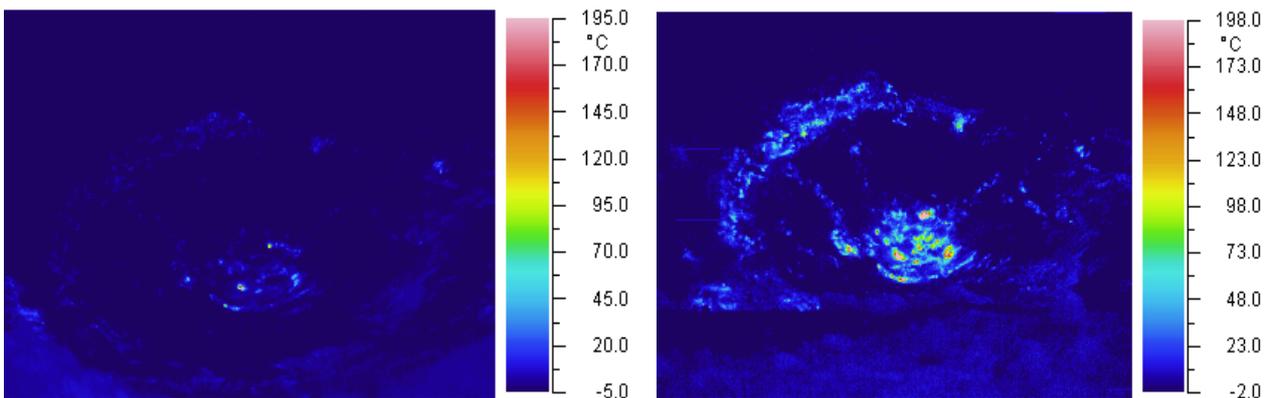


11 月 25 日、鬼押し出しカメラによる



11 月 21 日、西上空から撮影

図 1 ※ 浅間山 山頂部の噴煙の状況



①2006 年 11 月 1 日、火口南西縁から撮影

②2006 年 4 月 26 日、火口南西縁から撮影

図 2 浅間山 赤外熱映像装置²⁾ による火口内の温度分布

①の観測時には噴煙の影響が大きく、実際の温度よりも低く測定されていると考えられる。

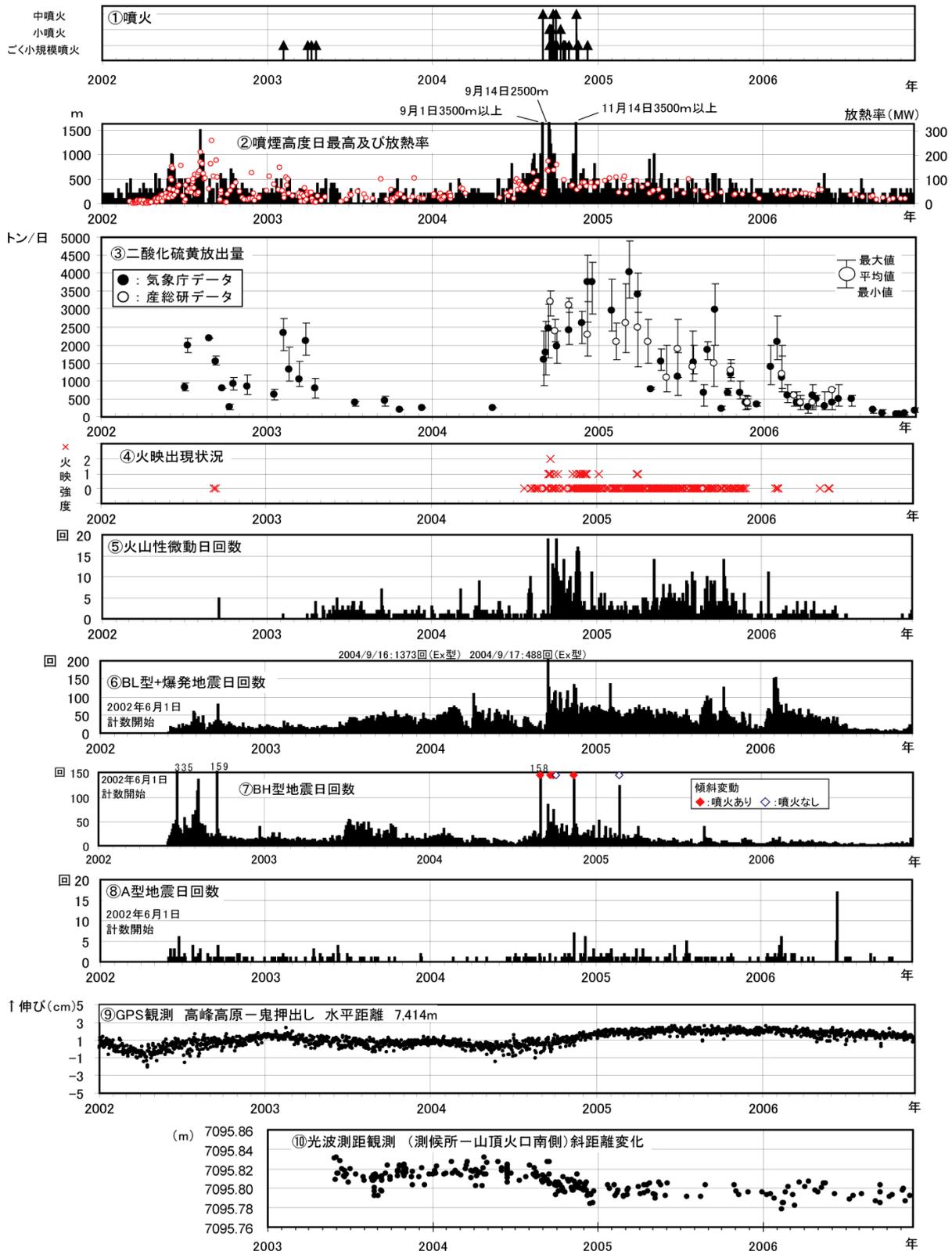


図3※ 浅間山 最近の火山活動の推移 (2002年1月~2006年11月)

③二酸化硫黄放出量グラフには産業技術総合研究所によるデータも含まれています。

⑥⑦⑧地震の種類別 (図6参照) に計数を開始した 2002年6月1日からのデータを掲載しています。

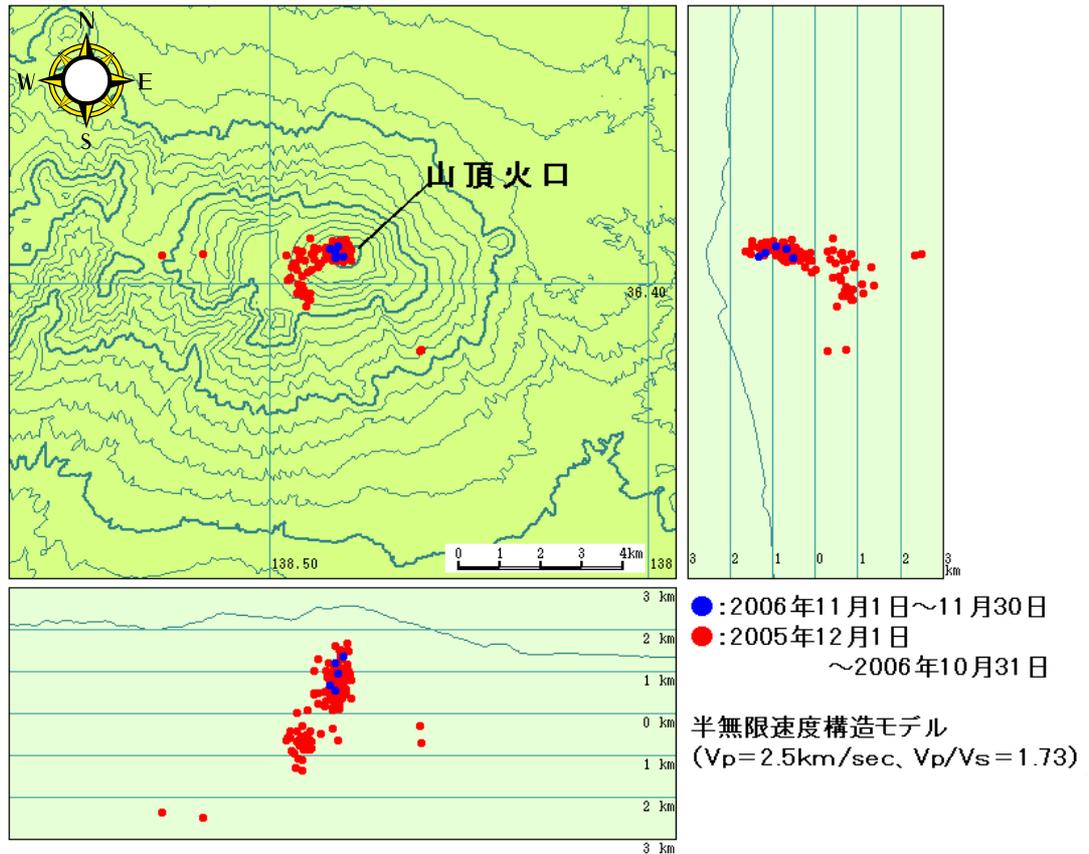


図 4※ 浅間山 火山性地震の震源分布（2005 年 12 月 1 日～2006 年 11 月 30 日）
震源計算には気象庁及び東京大学地震研究所のデータを使用しています。

○観測点情報

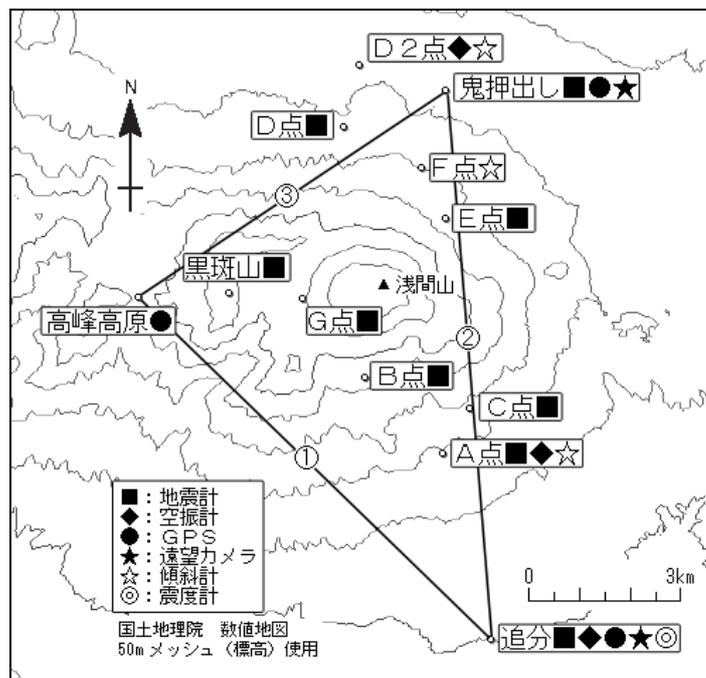


図 5 浅間山 気象庁の観測点配置図（小さな白丸は観測点位置を示しています。）

表 1※ 浅間山 2006 年 11 月の火山活動状況

	噴火回数	火山性地震の回数4)						微動回数	噴煙の状況 5)		火映強度 6)	備考
		A型	BH型	BL型	Ex型	その他	地震合計		日最高(m)	噴煙量		
1日	0	0	1	1	0	0	2	0	300	1	—	
2日	0	0	1	4	0	0	5	0	X	X	X	
3日	0	0	2	0	0	0	2	0	200	1	—	
4日	0	0	1	3	0	0	4	0	X	X	X	
5日	0	0	3	6	0	0	9	0	200	1	—	
6日	0	0	1	4	0	0	5	0	100	1	—	SO2放出量:50~120トン/日
7日	0	0	1	4	0	0	5	0	X	X	—	
8日	0	0	7	2	0	0	9	0	100	1	—	
9日	0	0	3	1	0	0	4	0	100	1	—	
10日	0	0	3	5	0	0	8	1	200	X	—	
11日	0	0	0	4	0	0	4	0	X	X	—	
12日	0	0	3	1	0	0	4	0	X	X	X	
13日	0	0	1	9	0	0	10	0	100	1	—	
14日	0	0	4	2	0	0	6	0	X	X	—	
15日	0	0	3	2	0	0	5	0	200	1	—	
16日	0	0	3	4	0	0	7	0	300	2	—	
17日	0	0	6	7	0	0	13	0	100	X	—	
18日	0	0	3	2	0	0	5	0	200	1	—	
19日	0	0	2	3	0	0	5	0	X	X	X	
20日	0	0	1	9	0	0	10	0	X	X	X	
21日	0	0	2	9	0	0	11	0	200	1	—	
22日	0	0	2	12	0	1	15	0	200	2	—	
23日	0	0	4	14	0	0	18	0	200	1	—	
24日	0	0	4	7	0	1	12	0	100	1	—	
25日	0	0	7	13	0	0	20	0	200	1	—	
26日	0	0	17	21	0	0	38	1	200	1	—	
27日	0	0	15	18	0	0	33	0	X	X	X	
28日	0	0	10	18	0	0	28	0	X	X	X	
29日	0	0	2	9	0	0	11	0	200	X	—	
30日	0	0	1	10	0	0	11	2	200	X	—	SO2放出量:130~250トン/日
合計	0	0	113	204	0	2	319	4				

4) 計算基準：B点振幅0.1μm以上でS-P時間3秒以内、火山性地震の種類は以下のとおりです。

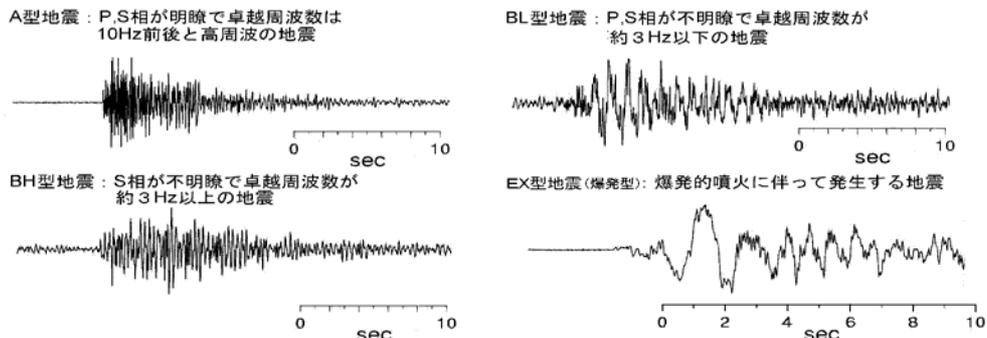


図 6 浅間山 主に発生している火山性地震の特徴と波形例

5) 噴煙の高さと噴煙量は定時観測（09時・15時）の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。

- 1：極めて少量 2：少量 3：中量 4：やや多量 5：多量 6：極めて多量
- 7：噴煙量6以上の大噴火。噴煙が山体を覆うぐらい多く、噴煙の高さは成層圏まで達したとみられる

6) 火映の強度は以下の4段階で観測しています。

- 0：肉眼では確認できず、高感度カメラのみ確認できる程度 1：肉眼でようやく認められる程度
- 2：肉眼で明らかに認められる程度 3：肉眼で非常に明るい色で異常に感じる程度
- ：火映なし ×：視程不良（終日観測できなかった場合）